

# 兵隊

# さかざり

# に映った

# 高崎

—あの日々を忘れない—



入館無料



令和元年

## 7月6日(土)–9月1日(日)

開館時間:午前9時~午後4時

休館日:月曜日及び海の日の翌日7月16日(火)、山の日の振替休日の翌日8月13日(火)

主催:高崎市歴史民俗資料館

後援:上毛新聞社、ラジオ高崎、J:COM 群馬

高崎市歴史民俗資料館 〒370-0027 群馬県高崎市上滝町1058 Tel・Fax:027(352)1261

E-mail:rekimin@city.takasaki.gunma.jp

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121900362/>

## さかづき 盃と日本人

「盃」は主に日本酒を飲むための器ですが、日本酒の原料となる米は日本人にとって主食であり命の源とされることから、稲作の農耕儀礼と酒は強く結びついています。米は神様からいただくものであり、米で造った餅や酒を神様に供えて感謝の気持ちを伝えます。神事後には、供えた米や酒を下げて神様とともにいただく「神人共食」を行い、神様の力を体の中に取り込みます。この時に使う「盃」は日本人にとって神と人を結ぶ特別な道具であり、人と人とを結びつけ、お互いの関係を神に誓った証拠となりました。このため、日本には古くから酒席での「盃のやりとり」の習慣があります。

## さかづき さかづき 盃と杯

盃という文字は 栢 という文字がもとになっています。「木偏」は大地を覆う木の象形、「不」は花のめしべの子房の象形、「口」は口の象形。全体としてふっくらとして大きいことを意味し、ふっくらとした木製の器から 杯 という文字ができました。後に「杯」の「木」が「皿」に変化して「盃」という漢字ができました。

「栢」は杯の旧字体で「杯」はその略字、「盃」は異体字。「杯」は中学生で習う漢字であり、「盃」と「栢」は常用漢字外ですが、「兵隊盃」の場合は「盃」の字を使います。

## 盃 従軍記念の盃の贈答

男子は満20歳(昭和18年には満19歳)になると、兵士としての適性を判断するための身体検査を受け、合格すると家族や近隣の人々に盛大に見送られて軍隊に入営しました。無事に帰ることができた兵士たちは見送ってくれた人々へ感謝と帰還の報告のために盃を贈りました。盃には日の丸や桜などが描かれ、「凱旋

記念」や「除隊記念」などの文字が書かれています。従軍記念の盃の贈答は日清戦争・日露戦争頃から始まり支那事変(日中戦争)まで続きましたが戦争の激化とともに次第に行われなくなりました。



## このえしだん 近衛師団

「近衛」とは奈良時代以来、「禁闕守護」(皇居守護)の目的から優秀な兵隊が選抜された「近衛府」のことで、近衛師団の前身は明治新政府の中心となった薩摩・長州・土佐の三藩から兵隊を募って明治4年(1871)に誕生した御親兵でした。明治5年(1872)御親兵は近衛兵と改称され、明治24年(1891)には近衛歩兵第一、近衛歩兵第二、近衛歩兵第三、近衛歩兵第四連隊と近衛野砲連隊からなる近衛師団が創設されました。近衛師団に配属されることはエリートとみなされ家族や親戚の誇りでした。



## ほへいだいじゅうごれんたい 歩兵第十五連隊

明治21年(1888)東京鎮台を母体に改編された「第一師団」は日本で最も古い師団の一つです。創設時の歩兵連隊は歩兵第一、歩兵第二、歩兵第三、歩兵第十五連隊からなり、その中でも歩兵十五連隊は日清戦争・日露戦争、満州事変・上海事変、太平洋戦争とほぼすべての戦役に参加しました。



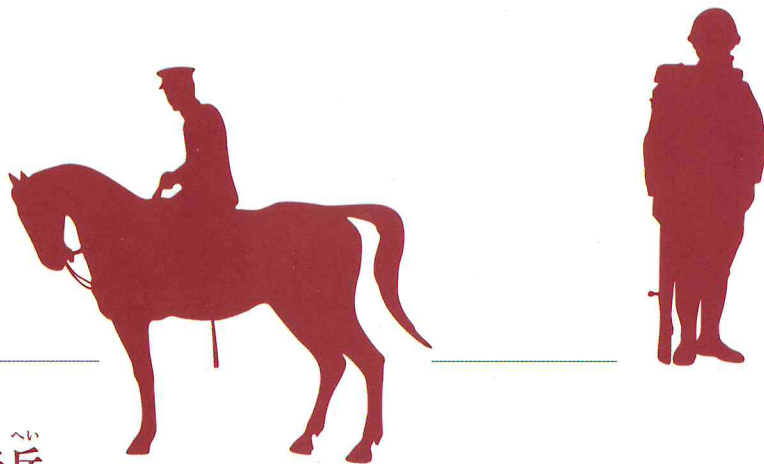
## ちょうへいれい 徴兵令

明治6年(1873)徴兵令により、日本全国のあらゆる階層の青年たちが兵役の義務と権利を有することになり、兵隊として徴募され、戦闘に参加するようになりました。兵隊は徴募されると兵営に入営し、所定の教育を受けて数々の内乱や外征に動員されました。兵士の多くは歩兵部隊に配属されましたが、適性によって歩・騎・砲・工の4科の特科部隊に振り分けられ、明治7年(1874)に輜重兵科ができてはじめて「軍隊」という名称が生まれました。



## 歩兵

歩兵部隊は軍の主兵であり敵の陣地を目指して前進し最初に敵を降伏させ占領することを任務としました。師団のもとには3~4個の歩兵連隊があり、県単位あるいは県の半分程度の区域の出身者によって編成されていました。このため郷土色が強く、団結力もある精銳から構成されていましたが、騎兵・砲兵・輜重兵などの特科部隊は数県にまたがる広い区域から適任者を選抜して編成されました。



## 騎兵

草創期の特科部隊の騎兵・砲兵・工兵・輜重兵の中で最初に消滅したのが騎兵でした。自動車や戦車のなかった日露戦争の頃は機動力のある騎兵部隊は最も重要視されましたが、第一次世界大戦の直後から世界的にも騎兵は徐々に姿を消しました。最後まで温存された昔ながらの騎兵旅団は騎兵四旅団のみで騎兵の役割は実質的には終わっていました。



## 習志野騎兵

明治6年(1873)明治天皇行幸の際に大和田原で近衛兵の演習が行われたことから「習志野原」と名付けられ、周辺に軍関係の施設などが拡張配備されました。日露戦争の際に当時最強といわれたロシア帝国のコサック騎兵部隊に対し、秋山好古騎兵第一旅団長率いる騎兵部隊が騎兵と砲隊からなる独自の編成で臨み、騎兵を歩兵として使うなど連携した戦術を駆使して戦ったことから「習志野」の地名が全国に広まりました。



## 砲兵

大砲を武器として戦い、戦術や目的に合わせて何種類もの大砲が開発されたことから大砲の種類によって砲兵部隊は分化しました。遠くへ真っすぐに飛ばす「野砲兵部隊」、山越えで大きな放物線を描くように飛ばす山砲は「山砲部隊」、口径が155ミリ以上・重量8トンを超える重砲は「重砲部隊(要塞砲兵部隊)」、その重砲を戦場に引っ張っていき、機動させながら戦闘に参加する「野戦重砲兵部隊」がありました。このほか、高射砲で飛行機撃墜を目的とする「高射砲部隊」、山砲を小型化した追撃砲を扱う「追撃砲部隊」などがありました。師団には野砲兵か山砲兵のどちらかの連隊がありましたが、日露戦争の経験から平地地帯での戦闘を想定して普通は野砲兵連隊でした。支那事変が始まり、山岳地帯の作戦が多くなったため、野砲兵連隊から山砲兵連隊に切り換えた師団が多くなりました。



## 工兵

工兵部隊はさまざまな専門部隊であるため、新しい兵科として鉄道兵・通信兵・航空兵・船舶兵(敵前上陸の輸送や沿岸輸送専門)に次第に独立していきました。きわめて特殊な技術を扱う分野は独立工兵部隊(独工と略称)として師団に属しないで必要に応じて配属されました。



## 輜重兵

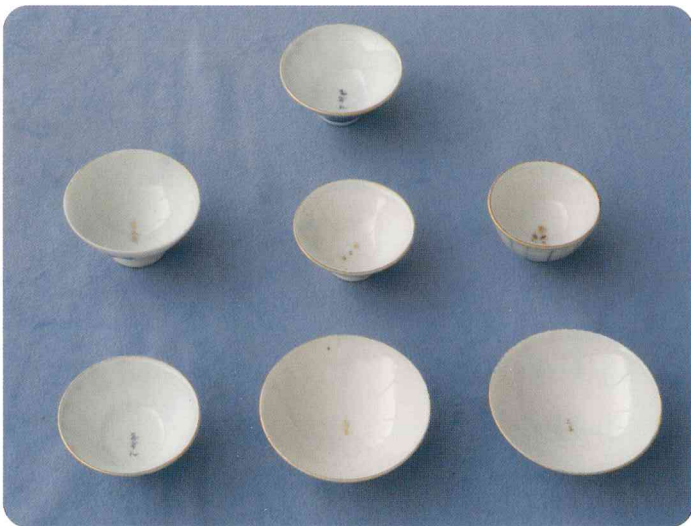
軍隊の糧食・被服・武器・弾薬など軍需品などの輜重しちょうの輸送を行う兵士を「輜重輸卒しちょうゆそつ」、警備し管理・統制する兵士を「輜重兵しちょうへい」といました。



かっ ぼう てん さかずき  
割烹店の盃



げい しゃさかずき  
芸者盃



戦時中の子ども茶碗



戦争が始まると、子ども茶碗の図柄にも徐々に戦争の機運が反映されるようになりました。子どもたちは飛行機や戦車に興味を持ち、あこがれるようになりました。

商業都市高崎の横顔

高崎城址は明治時代に兵営となったことから、大手門前(慈光通り)には兵隊のための専門店が建ち並び、軍服や日用雑貨のほか、除隊記念の連隊名入りの「盃」「お盆」「たばこ入れ」のセット「手ぬぐい」「風呂敷」などを売る店が軒を連ねていました。

高崎市歴史民俗資料館

- ① JR高崎駅西口(群馬中央バス) 県立女子大行き約30分「慈眼寺裏」下車徒歩3分
- ② JR高崎駅東口(群馬バス) 亀里JAビル行き約20分「下滝西」下車徒歩8分
- ③ JR高崎駅東口(ぐるりん) 群馬の森線「滝川郵便局入口」下車徒歩15分
- ④ 関越自動車道(高崎 IC)5分
- ⑤ 関越自動車道(高崎玉村スマート IC)3分
- ⑥ 北関東自動車道(前橋南 IC)5分

駐車場:大型車 3台 / 普通車 20台

高崎市歴史民俗資料館 〒370-0027  
群馬県高崎市上滝町1058 Tel・Fax:027(352)1261  
E-mail:rekimin@city.takasaki.gunma.jp  
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121900362/>

